

国指定史跡

ごんが かんが
恒川官衙遺跡

伊那谷から日本の国づくりを支えた役所



飯田市座光寺にある恒川遺跡群からは、昭和50年代から行ってきた調査の中で古代の伊那郡を治めていた『伊那郡衙』とよばれる奈良・平安時代の官衙(役所)の遺構いこうが見つかっています。この遺構は、日本の歴史を知るうえで重要な価値を持つ国民的財産であると国から評価され、これまでの調査で郡衙の遺構が確認されている区域が、平成26年3月18日に「恒川官衙遺跡」として国の史跡しせきに指定されました。

長野県飯田市教育委員会

日本史の中の伊那郡衙

- 伊那郡衙は、古代の主要道（東山道^{とうさんどう}）の難所であった神坂峠^{みさかとうげ}（国史跡）のふもとにあり、西の都（平城京・平安京）と東国を結ぶ結節点に位置する役所として、奈良・平安時代における国づくりに重要な役割を担っていました。
- 役所の長官の中には、天皇から高い位を与えられ、馬を管理していた人物もいました（金刺^{かなさし}舎人^{とねり}八麻呂^{はちまろ}）。
- 遺跡やその周辺からは、当時都でしか流通していなかった希少な古銭（富本銭^{ふほんせん}、和同開珎^{わどうかいちん}銀銭^{ぎんせん}）が出土しており、都との深いつながりがあったことがわかります。
- 税として集められた稲や雑穀^{ざっこく}を収めた倉庫である正倉^{しょうそう}は、時代の移り変わりの中で様々な構造をもっていたことがわかっています。また、そこから出土した炭化米^{たんかまい}によって、倉にはいろいろな種類があること、数度の火事にあっていたことが明らかになっています。
- 遺跡の中心部には古代より水が湧く恒川清水^{わごんがわしみず}があり、長い時代の中で神聖な場所として祀^{まつ}られ、大切にされてきました。伊那郡衙があった律令時代には政治の一部としての祭祀^{さいし}が行われた重要な場所です。



*図示したラインは概ねの範囲を示したものです。

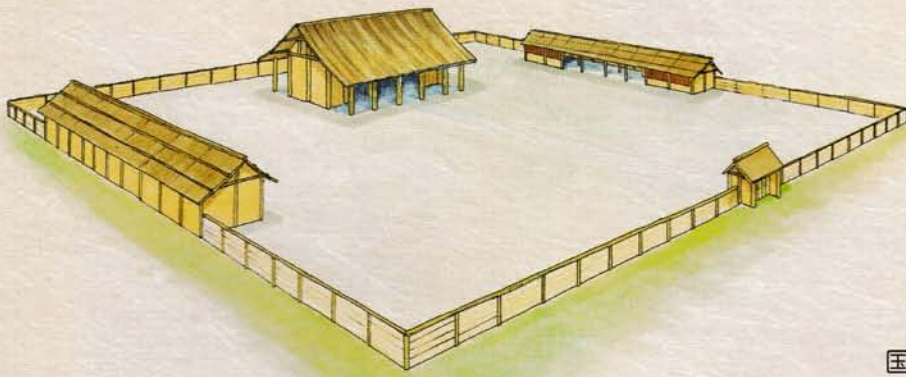
恒川官衙遺跡とその周辺

ぐん ちょう
郡 庁

只今搜索中

役所の中心施設であり、役人が執務や儀式ぎしきを行った場所です。

恒川遺跡群ではまだ見つかっておらず、現在確認調査を続けています。



ぼくと一緒に
恒川をみてみよう。



正倉建物の柱の跡



ごん がわ し みず
恒川 清水

遺跡の中央にある清水で、現在でも大切に守られています。

古代から水が湧き、恒川遺跡群の集落形成の源みなもととなった大切な場所です。

清水は今も
残ってるんだね。



*写真とイラストの合成はイメージです。



まつり
祀に使われた木製品





あと

しょう しょう 正倉

人々から税金として集めた稲や雑穀などを保管していた倉です。正倉が建ち並んでいた区画を「正倉院」とよびます。

納められた稲は非常用として蓄えられ、一部は農民への貸し出しにも使われ、その利息が役所の運営費にあてられました。



正倉院って
広いんだ～

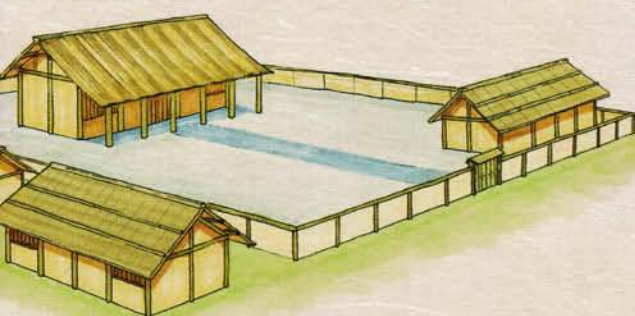


くり や 厨家

役所の給食施設です。



たち
館
しなののくに こく ふ おとず
都や信濃国の国府などから訪
れた役人の宿泊施設です。



厨家の建物の柱のあと



中央の地図は、恒川遺跡群の範囲を示したものです。
イラストは、伊那郡衙の施設等をこれまでの調査を基にイメージしたものです。

恒川遺跡群からの出土品



【飯田市有形文化財】

たくさんあるな〜
きっとふつうの
郡役所じゃ
なかったんだね。



仕事がいっぱいスーパー郡衙

遺跡からは、実に多くの硯すずりが見つっています。硯は役所の役人が使う事務用品で、出土数の多さは、伊那郡衙が通常の郡衙以上の業務をこなし、国の役所的な機能を持った重要な役所だったことを物語っています。



しょうそう
正倉はたびたび火災をうけました。天災だったり、時には人災じんさい? だったかもしれません。これは火事の証拠となる焼け出された米です。



この地方で
瓦葺きの正倉は
珍しいんだよ。



【飯田市有形文化財】

全国的にも貴重な
米なだけで...



【飯田市有形文化財】

しょうそうしん
正倉院の中で格式の高い正倉しょうそうに
葺かれた瓦かわらです。中部地方で瓦
葺きの正倉が確認されたのは初め
てです。



【長野県宝】

くりや
底に「厨」と書かれた平安時代の碗です。料理を盛る器として使われたものです。この1文字が役所跡であることを示す有力な証拠となります。

都からもたらされた日本最古の貨幣「富本銭ふほんせん」や発行数が限られていた「和同開珎わどうかいちん (銀銭ぎんせん)」が遺跡やその周辺で複数出土しています。

未来へ向かう地域のシンボル

伊那郡衙の存在は、飯田の地が、古代から内陸交通の要衝ようしゅうにあり、独自の産業を興おこして日本の国づくりに重要な役割を果たしていたことや、当時から東西の多様な文化を積極的に受け入れて独自の文化を築いていたことがわかります。恒川官衙遺跡は貴重な文化遺産であると同時に、これからの飯田のあり方を示すシンボルでもあります。

恒川遺跡群については、これからも、郡庁等の関連施設の所在を確認する調査を継続して行い、史跡の追加指定を目指します。また、保存管理計画を策定し、地域の皆さんと協働して保存活用を進めていきます。遺跡の周辺には元善光寺、麻績おみの里みなみ、南本城城跡、高岡第1号古墳等の様々な歴史資産があり、これらの歴史文化ゾーンを「2000年浪漫の郷」として、市民また地域外から訪れる方々にとっての憩い、交流、学習の場となるよう活用を図っていきます。



麻績の里 舞台桜を説明する子ども桜ガイド

史跡周辺の文化財



高岡第1号古墳
(長野県史跡)

全長72.3mの前方後円墳。
飯田・下伊那地方で最大級の古墳の一つで、6世紀中頃に造られたと考えられます。
後円部に横穴式石室があり見学できます。



南本城城跡
(長野県史跡)

東西340m、南北370mの範囲に広がる中世の山城で、主郭を中心に深い堀や数多くの郭を重ねた複雑な構造が特徴です。
残念ながら城主は不明です。
城全体を散策できます。



旧座光寺麻績学校校舎
(長野県宝)

明治6年(1873)建築の歌舞伎舞台と学校が一体化した校舎です。学校建築としては長野県で最も古く、農村の歌舞伎舞台としては最大級の建物です。
内部を見学することができます。



元善光寺
(如来寺)

現在の善光寺(長野市)の本尊である善光寺如来が最初に安置された伝承の残る寺院です。善光寺と同じく7年に一度の御開帳や戒壇巡りがあります。また元善光寺釈迦涅槃像(飯田市有形文化財)を拝観することができます。

お問い合わせ

飯田市教育委員会事務局 生涯学習・スポーツ課

〒395-8501 長野県飯田市大久保町2534 番地 TEL.0265-22-4511 FAX.0265-22-7969